

「教科化」時代の道德教育を加速する教員研修メソッドの再構築

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2024-03-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 美智太郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000415

令和 5 年 6 月 25 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H02697

研究課題名（和文）「教科化」時代の道德教育を加速する教員研修メソッドの再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of teacher training methods to accelerate moral education in the age of "morality, a special subject"

研究代表者

中村 美智太郎（Nakamura, Michitaro）

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：20725189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究で得られた成果は、次の5点に整理される。第一に、こころのケアと多様なコミュニティ形成を支援する教員研修のアプローチとケースメソッドを道德教育研究のフレームに導入した。第二に、開発したケース教材と研修メソッドを著作として公表し、実践面での普及を図った。第三に、開発した研修メソッドを通じて、経験の多寡に依存せず、教員が効果的な道德教育を運営・推進できるようになる可能性を開拓した。第四に、開発したケース教材と研修メソッドによって、道德教育の運営において「高度化」する学校と地域の可能性を開拓した。第五に、探究的な道德教育の可能性をさらに理論と実践の両面から追究する研究シーズが生み出された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義は、第一に、従来の道德教育の構造的な限界を理論・実践両面から明らかにしたこと、第二に、そうした構造的な限界を乗り越えることを支援するケース教材及び研修メソッドを開発したこと、第三に、開発した教材及びメソッドの持つ利点・弱点を、理論・実践双方から明らかにしたことである。社会的意義は、第一に「教科化」時代の道德教育を加速・充実させる方向性を、小中高の全段階において実践面でも明確にしたこと、第二に、「教科化」時代の道德教育を理論・実践の両面から加速するためのケース教材と研修メソッドを開発・公開したこと、第三に、全体を通じて、児童・生徒の道德性の育成可能性を切り開いたことである。

研究成果の概要（英文）：The results obtained in this study can be summarized in the following five points. First, a teacher training approach and case method that supports mental health care and diverse community formation were introduced into the frame of moral education research. Second, the developed case materials and training methods were published as books and disseminated in practice. Third, through the developed training methods, we pioneered the possibility for teachers to manage and promote effective moral education without depending on their experience. Fourth, through the developed case materials and training methods, we have opened up the possibility for schools and communities to become "advanced" in the management of moral education. Fifth, research seeds were generated to further pursue the possibility of inquiry-based moral education from both theoretical and practical perspectives.

研究分野：道德教育

キーワード：道德教育 ケースメソッド

1. 研究開始当初の背景

グローバル化や価値の多元化が急速に進む社会の変化を「生き抜く力」を育成することは、わが国にとって緊急の課題である。しかし、わが国の子どもには、生命尊重の心や自尊感情の乏しさ・人間関係を築く力や集団活動を通じた社会性育成の不十分さといった道徳的な問題がみられることがしばしば指摘されている(林泰成『新訂 道徳教育論』放送大学教育振興会, 2009年他)。日本における道徳教育は、1958年に「道徳の時間」が特設されて以降、学校における教育活動全体を通じて行われる道徳教育(いわゆる全面主義)と、道徳の時間に実施される道徳教育(いわゆる特設主義)の双方によって、いわば二重の形式において推進されてきた。2015年3月27日に告示された『小学校学習指導要領』『中学校学習指導要領』の改正によって、後者を「特別の教科 道徳」(以下「道徳科」)として「教科化」することとなり、小学校においては2018年度から、中学校においては2019年度から、それぞれ実施される。こうした状況を目前に控えて、道徳教育の活性化がまさに急務となっており、特に「教科化」時代の道徳教育をどのように充実していくかは喫緊の課題である。

また、「教科化」において検定教科書が導入されるが、これまでも副教材として「心のノート」や「私たちの道徳」が使用されてきた経緯がある。学習指導要領でも副教材でも、道徳教育で取り扱われる道徳的諸価値の多くは、西洋にその出自を持つ伝統的な概念である。道徳教育の「要」として位置づけられる道徳科は、教科化されても、検定教科書や実践において取り上げられる西洋由来の道徳的諸価値と無縁となるわけではない。そこで、道徳科において基盤となる内容項目で取り扱われる価値概念についての原理的な研究を通じて、その現代的な課題への可能性を開拓することが求められている。戦後最大の岐路を迎えている現在の道徳教育の今後のあり方とその方向性をより豊かなものにしていくためにこそ、こうした諸価値を常に原理的に問いながら、時代の要請に応え続けていく必要がある。

さらに、学校の教育活動全体を通じて行うとされてきたこれまでの道徳教育については、「確固たる成果を上げている学校がある」一方、「道徳の時間」が「他教科に比べて軽んじられていること」や「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例があること」といった点について、課題があることも指摘されている(文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』, 2015年他)。こうした課題に対しては、これまでもオルタナティブな方法論は準備され、例えばモラル・ジレンマ授業などが挙げられる。こうした授業は、「道徳性発達」に基づき、「道徳の時間」で使用しやすく、かつ「価値の学び」を導きやすいというメリットを持つ。しかし、このアプローチは同時に継続性と個人対応性において困難が伴うという構造的な限界も同時に持つ。つまり、子どもにおける価値の衝突は常に起こり続けるわけではなく、また同じクラスに所属していてもそれぞれ異なる道徳的成長段階にある子どもの個人差に対応しにくいという限界である。こうした限界を乗り越えるためには、「教科化」時代の道徳教育にふさわしい教材の開発と、児童・生徒の道徳性を直接涵養に導く教員における「資質の高度化」が不可欠である。

2. 研究の目的

本研究は、以上の背景と課題を踏まえ、小学校・中学校・高等学校までの児童・生徒の発達過程を見通した、シリアルな道徳教育の実現を目的とする。特に、教科化されない高等学校における道徳教育は、その必要性が強く認識されながらも後景に退いているという現状があるため、あわせて、この現状の打開に向けた教材開発と手立てを構築する。これらの課題に取り組むためには、教員の資質向上を実現するために適切で、かつ効果的な研修プログラムを開発し、それを検証しながら、道徳教育に取り組む全ての教員に還元し得る研究が求められる。こうした研究では、とりわけ、道徳の教科化の直接的な契機のひとつとなった「いじめ問題」への対応に代表される、複雑化・多様化した社会をすでに生きている児童・生徒のこころのケアと多様なコミュニティ形成への支援と結びつき、あらゆる教員にとって不可欠な道徳教育上の課題でもある。本研究では、ケースメソッドのアプローチを最大限活用しながら、「教科化」時代の道徳教育を加速する教員研修メソッドの再構築を実現していく。

3. 研究の方法

「道徳の教科化」を迎え、学校における道徳教育の刷新と加速は喫緊の重要課題となっている。この課題を解決するためには、道徳教育に関わる教員の資質を高度化することが欠かせない。そこで、本研究では、次の2つのアプローチを採用する。

(1) 教員が道徳教育の実践能力及びメソッドを自ら高められるように、わかりやすいケース・ブックの形態をとった教材開発を提示する。

(2) (1)で提示される具体的な成果物を基盤として、教育委員会及び諸学校の協力のもとで実現する多様な実践を交えながら、ケースメソッドを導入して児童・生徒の道徳的涵養を可能にする教員の資質の「高度化」を実現する教員研修メソッドを再構築していく。

学校教育において顕在化しつつある道徳的課題を解決するために本研究全体を通じて採用す

る「ケースメソッド」とは、20世紀初頭からハーバード大学のロースクールで用いられてきた授業方法であったものを、同じハーバード大学ビジネス・スクールで経営教育へと展開されたものである。ケースメソッド教育においては、教師が学生・参加者と共に「クラス全体で討論しながら授業を進め」、「討論」＝「ディスカッション」の形式をとる。ディスカッションで使用する「実際の出来事が記述された数ページの事例」＝「ケース」を基にして、教師は、「議論が有益な展開になるように論点の流れの舵を取る」役割、すなわち「ディスカッション・リーダーシップ」を取る役割を担う。このため、ケースメソッド教育においては、「一方通行」になりがちな教科書を使用するタイプの授業に比べて、「双方向の発言」がより期待されるという利点がある。具体的には、「具体的に討論することにより学習が深まる」「学習事項を実践に応用する技能を育成できる」「疑似体験により将来起こりうる事象に対してよりよい準備ができる」「参加者の多様な価値観により啓発される」点が挙げられる。

こうしたケースメソッド教育の利点を最大限に活かすために、「価値概念の原理的探求と道徳教育実践の史的検討」、「ヘルス・プロモーション活動研究に基づいた教員研修メソッドの開発」、「ケースメソッドに基づく共感・連帯を可能にする実践方法探求」、「ディスカッション・リーダーとしての高度化と「学び続ける共同体」の形成」という、問題群ごとに構成される4つの研究班を構成する。これら4班は、定期的にクロスワークを行うとともに、研究協力者・協力校として小学校・中学校・高等学校全てを配置し、シリアルな道徳教育を実現していく。

この定期的なクロスワークを通じて、(a)これまでの道徳教育の教材や資料の持つ構造的な限界がどこにあったのかを理論及び実践の両面から検討すること、(b)(a)を通じて、そうした構造的な限界を乗り越えることを可能にする教材を開発すること、(c)(b)を通じて開発した教材の持つ利点及び弱点を、理論面・実践面双方から明らかにすること、をそれぞれ実現する。(a)(b)(c)それぞれにより、「教科化」時代の道徳教育を加速・充実させる道徳教育の方向性を、小学校・中学校・高等学校の全段階において明確にする。これにより、これまでの限界を乗り越え、「教科化」時代の道徳教育の構築を理論・実践の両面から加速していくことで、児童・生徒の道徳性の育成に寄与していく。

4. 研究成果

本研究全体を通じて得られた成果は、以下の5点に整理される。

第一に、本研究では、養護教諭の養成・研修において培われた児童・生徒のこころのケアと多様なコミュニティ形成を支援する教員研修のアプローチと「ケースメソッド」を道徳教育研究のフレームに導入した。道徳教育研究に、これらを導入することは、子どもの「生きる力」の育成という観点から、「教科化」時代の道徳教育の加速を試みるものであると位置づけられ、学校での学びにおいて、その視点を児童・生徒に提供するだけでなく、授業者としての教師と学校が所在する各地域にも提供することを可能にするものである。特に、地域で教育活動に従事する市民が、本研究で開発した、ケースメソッドの手法に基づく道徳教育を実現するという提案を受けて、学校において行われる教師の教育活動をハブとしつつ、ケースメソッド道徳に向き合う構えを醸成していくことへの気づきを生み出したことで、「学び続ける共同体」の形成に寄与した。

第二に、本研究では、教材と研修メソッドの開発を行ったが、それらを著作の形で公表し、実践面での普及を図った。特に、『とことん考え話し合う道徳 ケースメソッド教育実践入門』（中村美智太郎・鎌塚優子・竹内伸一・岡田加奈子編著、学事出版、2018年）では、ケースメソッド教育を道徳教育に導入する段階から手引きし、かつ小中高を通じてシリアルな道徳教育を実現可能にする教材として使用できる点に、また『探究的な学び×ケースメソッド 教育イノベーターのための新しい授業チャレンジ』（中村美智太郎・鎌塚優子・竹内伸一編著、学事出版、2022年）では、高校段階における道徳教育の実践現場としての探究的な学びに着目し、シリアルな道徳教育を実践しようとする教師を支援する研修教材としても使用できる点に、さらに『討論して学ぶ探究的道徳ケースブック』（鎌塚優子・竹内伸一・中村美智太郎編著、静岡学術出版、2023年）では、高校における探究的な学びから遡及して小中における探究的な学びへと繋げるといった視点から、ケースメソッド教育を実践できるようになった教師が探究的な道徳教育を行う際に、どの学校種であっても活用できる点に、それぞれ特徴がある。いずれにおいても、学術的な示唆に加えて実践的な示唆をも与え、「教科化」時代の道徳教育を加速する教員研修メソッドの再構築を実現することに貢献するものである。

第三に、研修メソッドの開発を行ったが、本研究を通じて作成する教材及び研修メソッドを活用すれば、たとえ経験の浅い教員であっても、効果的な道徳教育を学校全体の活動の中で実現でき、「教科化」後にも、より意義あるものとして実体化して運営・推進することができるようになる可能性を開拓した。特に、ケースメソッドに基づく道徳教育の実践を主導するリーダーという存在を分析することを通じて、学校において組織的にケースメソッドに基づく道徳教育を実践していくにあたり、不可欠な教員の資質・能力についても示唆を得た。

第四に、開発したケース教材と研修メソッドによって、必ずしもリーダーとしての役割を担うわけではない各教員が、道徳授業や道徳教育の運営において、ディスカッション・リーダーとしての資質を高めること、また、相互に連携しながら、学校運営を行える教員と地域住民の「高度化」への可能性を開拓することに貢献した。特に、オンライン及びオンデマンドの授業及び研修講座を提供することで、より広範な連携の可能性を示し、学校組織が学校外組織と連携する方法

を実践的に学び、同時に、教員養成段階の学生・大学院生が関与することで教員養成・研修の一体化の可能性を示した。これらを通じて、児童・生徒における道德教育に関わる思考の柔軟性を育て、市民性の健全な陶冶という喫緊の社会的課題に学校全体で取り組むことのできる枠組みへの示唆を得た。

第五に、本研究全体を通じて得られた知見に基づき、高校段階における探究的な道德教育の可能性をさらに理論と実践の両面から追究する研究シーズが生み出された。例えば、本研究を通じて明らかになった、高校段階での道德教育を推進する際に直面する、解決すべきいくつかの新たな課題を引き受け、科学研究費基金事業・基盤研究(C)「『探究的な学び』のプログラム開発と実践を通じた高校における道德教育の刷新と展開」の研究課題において取り組まれている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 27件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 中村美智太郎・竹内伸一・鎌塚優子	4. 巻 52
2. 論文標題 「ケースメソッド教授法に基づく道徳教育」を再構築する試み--オンライン授業提供・学校外教育体制・教育NPO法人連携・教職課程学生参画の4アプローチに基づいて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00027903	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 野澤俊介・中村美智太郎	4. 巻 71
2. 論文標題 「つながり格差」とキャリア形成：外国にルーツを持つ学生へのインタビュー調査に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（人文・社会・自然科学篇）	6. 最初と最後の頁 143-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00027833	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中村美智太郎	4. 巻 52
2. 論文標題 情報環境における道徳的行為者の「責任」と「答責性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告（教科教育学篇）	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00027845	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・大島安紀子・中村美智太郎	4. 巻 30
2. 論文標題 教員と教員養成系大学生を対象とした中学生の行動基準要因への認識に関する調査的研究：考え，議論する「モラル教育」を実践できる教員の育成を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00027103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・中村美智太郎	4. 巻 31
2. 論文標題 学習者の道徳的行動の変容を目的とした教育実践研究の動向と課題：小中高生を対象とした先行研究のシステマティック・レビューを通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027904	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村美智太郎・藤井基貴・松尾由希子・鈴木希実・野澤俊介・渡邊賢人	4. 巻 17
2. 論文標題 オンライン・オンデマンドツールを活用した教職授業「教育の原理」の授業改善：ディスカッションの促進と運営における課題解決の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育研究	6. 最初と最後の頁 169-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00028097	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ito, Shinichi Takeuchi	4. 巻 45-2
2. 論文標題 The demise of active learning even before its implementation? Instructors' understandings and application of this approach within Japanese higher education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Education Inquiry	6. 最初と最後の頁 211-225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/20004508.2020.1860283	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ito, Shinichi Takeuchi	4. 巻 -
2. 論文標題 Active learning in Japan: Breaking barriers at individual, institutional, and policy levels	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Policy Futures in Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1478210321999933	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 623-8
2. 論文標題 名古屋商科大学のオンライン授業実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IDE現代の高等教育	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村安里・鎌塚優子	4. 巻 31
2. 論文標題 中学校の保健授業に関する実態調査を活かした小学校での保健教育の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 351-358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027936	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤寿子・鈴木恵美・鎌塚優子	4. 巻 31
2. 論文標題 ICTを活用した新たな保健教育の試み：小中一貫教育を効果的に行うために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 359-366
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027937	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一・鎌塚優子・中村美智太郎	4. 巻 51
2. 論文標題 ケースメソッドによる道徳教育実践を指揮した一校長に関する研究--リーダーの内面に形成されゆく教育実践基盤をナラティブから取り出す試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00026957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村美智太郎	4. 巻 93
2. 論文標題 「遊戯」の領域と「忘我」--シラー『美的教育書簡』における美的差異の問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 唯物論	6. 最初と最後の頁 84-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・大島安紀子・中村美智太郎	4. 巻 30
2. 論文標題 教員と教員養成系大学生を対象とした中学生の行動基準要因への認識に関する調査的研究--考え, 議論する「モラル教育」を実践できる教員の育成を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6. 最初と最後の頁 28-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito Hiroshi, Takeuchi Shinichi	4. 巻
2. 論文標題 Instructors' understanding, practices, and issues regarding the use of the case method in higher education	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Further and Higher Education	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0309877X.2020.1744544	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮地美帆・山崎朱音・鎌塚優子	4. 巻 43(1)
2. 論文標題 女子高校生を対象とした女性アスリートの三主徴の実態と認知	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海学校保健研究	6. 最初と最後の頁 151-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井出智博・玉井紀子・鎌塚優子・山元薫・松尾由希子・細川知子	4. 巻 51
2. 論文標題 セクシュアルマイノリティ児童生徒へのスクールカウンセラーによる支援の現状と課題--肯定的カウンセリングの自己効力感に注目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00026978	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深澤多恵・鎌塚優子	4. 巻 30
2. 論文標題 学びの継続性を意識した小学校・中学校における保健教育に関する研究--学習内容の印象に関する実態調査を手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 272-279
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00027130	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鎌塚優子・玉井紀子・井出智博・松尾由希子・山元薫・細川知子	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 養護教諭における性的マイノリティ児童生徒への対応の自信に関わる要因の検討--小学校、中学校、高等学校の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康相談活動学会誌	6. 最初と最後の頁 41-51
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・中村美智太郎	4. 巻 29
2. 論文標題 大学生の道徳的規範意識と情報モラルの関連性の分析--情報モラルへのイメージに関する自由記述を対象として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00026351	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 掛本健太・中村美智太郎	4. 巻 50
2. 論文標題 学校におけるセクシュアルマイノリティ支援に関する研究--『当事者』と想定されない当事者に着目して	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)	6. 最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00026207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内伸一	4. 巻 555
2. 論文標題 管理職の力量をどう見るか--ケースメソッドの可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教職研修	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中村美智太郎・鎌塚優子・上野博史	4. 巻 28
2. 論文標題 道徳教育における現代的課題に対応したケース開発と実践の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村美智太郎	4. 巻 68
2. 論文標題 Fr. シラーの美的教育思想における「遊戯」の領域--「美的主体」を手がかりとして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)	6. 最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大瀧綾乃・中村美智太郎・藤井基貴	4. 巻 28
2. 論文標題 教員のICT活用指導力の向上に関する一考察--外国語教育におけるE-ラーニング導入の課題と可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・中村美智太郎	4. 巻 28
2. 論文標題 内容項目に基づく「道德意識」に関する検討--教員養成段階の大学生に対する調査	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井郷平・田中奈津子・高瀬和也・中村美智太郎	4. 巻 53
2. 論文標題 学級の「1人1台端末」環境における教員のルールづくりの傾向と要因の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コンピュータ&エデュケーション	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内 伸一、鎌塚 優子、中村 美智太郎	4. 巻 54
2. 論文標題 学校で取り組むケースメソッド教育 : プロフェッショナル教育から公教育へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学教育学部研究報告. 教科教育学篇 = Bulletin of the Faculty of Education, Shizuoka University. Educational research series	6. 最初と最後の頁 196 ~ 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14945/00029271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野 生吹、勝野 由志雄、鎌塚 優子、野津 一浩	4. 巻 33
2. 論文標題 教科として学ぶ保健授業に係る養護教諭の専門性と役割：保健指導的な立場からのかかわりを意図して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 静岡大学教育実践総合センター紀要	6. 最初と最後の頁 246～253
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14945/00029444	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 満下健太、鎌塚優子、村越真	4. 巻 32
2. 論文標題 学校の管理下における障害事故の発生状況分析--小学校休憩時間中の事故に対する計量的分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リスク学研究	6. 最初と最後の頁 233-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 中村美智太郎
2. 発表標題 倫理的問題を議論する力はいかにして育まれるか--学校教育の試みから考える
3. 学会等名 第56回「ケアの人間学」合同研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 栗本博行・韓尚憲・竹内伸一
2. 発表標題 コロナ禍における教学データ活用
3. 学会等名 大学教育改革フォーラムin東海（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鎌塚優子・竹内伸一・中村美智太郎
2. 発表標題 ケースメソッドでMoral Education
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「Kids online study ケースメソッドでMoral Education」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内伸一・鎌塚優子・中村美智太郎
2. 発表標題 ケースメソッド道徳Lesson Study Workshop
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「ケースメソッド道徳Lesson Study Workshop」シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yuya Watanabe, Michitaro Nakamura
2. 発表標題 Studying Self-construal in Learning Community from the Viewpoint of Self-formation Using the Concept of Authenticity
3. 学会等名 Inter Academia Asia 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nao Iwahori, Michitaro Nakamura
2. 発表標題 Japanese Classes Using Folk Tales in Shizuoka
3. 学会等名 Inter Academia Asia 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮地美帆・山崎朱音・鎌塚優子
2. 発表標題 女子高校生を対象とした女性アスリートの三主徴の実態と認知
3. 学会等名 東海学校保健学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井出智博・松尾由希子・鎌塚優子・山元薫
2. 発表標題 養護教諭から見た“性の多様性”に関する授業の取り組み--学校段階による現状と必要性の比較
3. 学会等名 日本健康相談活動学会第16回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中村美智太郎
2. 発表標題 新学習指導要領での新しい道徳教育
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 考えさせ議論させる授業のためのケースメソッド教授法
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎌塚優子
2. 発表標題 ケースメソッド教育の進め方，多様性・共生社会に向けてインクルーシブ教育の視点に留意した支援の在り方
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉野和美
2. 発表標題 実践報告：ケースメソッドによる道徳を校内に広めよう
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 畠山康男
2. 発表標題 ケースメソッド実践報告
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 渡邊睦美
2. 発表標題 実践報告：養護教諭の専門性を活かした横断的学習の試み
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野博史
2. 発表標題 実践報告：道徳のケースメソッド実践から
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校における道徳教育の可能性」シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村美智太郎
2. 発表標題 近代における「遊戯」の再考
3. 学会等名 東京唯物論研究会4月定例研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村美智太郎・田中倫紀
2. 発表標題 中学校で多様な性について伝えることについて
3. 学会等名 NPO法人ReBit「学校で伝える多様な性--先生と学校づくりを考える」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村美智太郎
2. 発表標題 新学習指導要領での新しい道徳とは--これからの道徳教育について
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 考えさせ議論させる授業のためのケースメソッド教授法
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野博史
2. 発表標題 道徳のケースメソッド実践から
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木結
2. 発表標題 ケースメソッド教育を取り入れた道徳の授業
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡邊睦美
2. 発表標題 養護教諭の専門性を活かした横断的学習の試み--保健と道徳の繋がりに着目して
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉野和美
2. 発表標題 ケースメソッドによる道徳を校内に広めよう
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌塚優子
2. 発表標題 ケースメソッド教育の進め方
3. 学会等名 道徳教育等に活かすケースメソッド教育研究会「とことん考え議論するケースメソッド授業--学校で行う道徳教育をその第一歩として」シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村美智太郎・梅澤収・田宮緑・池田恵子・三ツ谷三善・武井敦史・ヤマモト・ルシア・エミコ・河合美保・小堀春希
2. 発表標題 2017年度静岡大学ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムの取り組み
3. 学会等名 第9回ユネスコスクール全国大会 / ESD研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高瀬和也、酒井郷平、田中奈津子、臼杵ふたば、中村美智太郎
2. 発表標題 学校教員を対象とした授業での ICT 活用頻度と指導への自信に関する調査研究
3. 学会等名 コンピュータ利用教育学会2022PCCConference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 竹内伸一
2. 発表標題 ケースメソッド教育実践の100年史
3. 学会等名 HBSケースメソッド百周年記念講演会・ハーバードビジネススクール日本リサーチセンター
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 藤井基貴・村越真・中村美智太郎・塩田真吾・満下健太・安永太地	4. 発行年 2021年
2. 出版社 静岡学術出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 自律的思考を促すスポーツ・インテグリティ教育 理論と実践の構築を目指してー	

1. 著者名 鎌塚優子・大沼久美子・東真理子・大島紀人・川原祐介・澤村文香・謝村錦芳・袴田晃央・道上恵美子・満下紀恵・森俊明・力丸真智子・渡邊睦美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 128
3. 書名 「新しい学校生活」のための感染症対策ハンドブック	

1. 著者名 中村美智太郎・鎌塚優子・竹内伸一・岡田加奈子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 127
3. 書名 とことん考え話し合う道徳--ケースメソッド教育実践入門	

1. 著者名 ギンター・ペルトナー, 渋谷 治美, 中野 裕考, 中村 美智太郎, 馬場 智一, 大森 万智子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 329
3. 書名 哲学としての美学 : "美しい"とはどういうことか	

1. 著者名 中村美智太郎, 鎌塚優子, 竹内伸一	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学事出版	5. 総ページ数 160
3. 書名 探究的な学び×ケースメソッド--教育イノベーターのための新しい授業チャレンジ	

1. 著者名 鎌塚優子, 竹内伸一, 中村美智太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 静岡学術出版	5. 総ページ数 120
3. 書名 討論して学ぶ 探究的道德ケースブック	

1. 著者名 藤井基貴, 村越真, 中村美智太郎, 塩田真吾	4. 発行年 2023年
2. 出版社 静岡学術出版	5. 総ページ数 136
3. 書名 教育の現代的課題シリーズ 防災教育とICT	

〔産業財産権〕

〔その他〕

道德教育等に活かすケースメソッド教育研究会
<https://amec-japan.jimdofree.com/>
 中村美智太郎研究室 | 静岡大学教育学部
<https://nakamura-michitaro.net/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 伸一 (Takeuchi Shinichi) (60774487)	名古屋商科大学・経営学部・教授 (33914)	
研究分担者	鎌塚 優子 (Kamazuka Yuko) (80616540)	静岡大学・教育学部・教授 (13801)	
研究分担者	岡田 加奈子 (Okada Kanako) (10224007)	千葉大学・教育学部・教授 (12501)	削除：平成30年2月15日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	酒井 郷平 (Sakai Kyohei)		
研究協力者	高瀬 和也 (Takase Kazuya)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田中 奈津子 (Tanaka Natsuko)		
研究協力者	河合 美保 (Kawai Miho)		
研究協力者	鵜澤 京子 (Uzawa Kyoko)		
研究協力者	上野 博史 (Ueno Hiroshi)		
研究協力者	掛本 健太 (Kakemoto Kenta)		
研究協力者	今村 文香 (Imamura Ayaka)		
研究協力者	岩本 悠 (Iwamoto Yu)		
研究協力者	カーステン ミハルケ (Karsten Michalke)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ゲールマン アクセル (Gehrmann Axel)		
研究協力者	畠山 康男 (Hatakeyama Yasuo)		
研究協力者	高木 結 (Takagi Yui)		
研究協力者	渡邊 睦美 (Watanabe Mutsumi)		
研究協力者	吉野 和美 (Yoshino Kazumi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関